



三鷹市統括スクール・コミュニティ推進員 四柳 千夏子さん(教育センター内のスクール・コミュニティ推進室にて)

学校支援ボランティアとの協働による地域ぐるみの教育を目指して 学校と地域をつなぐ 「スクール・コミュニティ推進員」の配置を拡充します

少子高齢化やグローバル化、情報化の中で子どもを取り巻く環境が大きく変化し、学校が抱える課題が複雑化、多様化する中で、これからの時代に求められる資質・能力を子どもたちに育むためには、地域と学校が連携・協働し、社会全体で子どもたちの教育を担うことがますます重要になっていきます。

「スクール・コミュニティ推進員」は、こうした地域ぐるみの教育を広げるために教育委員会から委嘱され、学校と地域をつなぐ仕事をしています。平成30年度に「スクール・コミュニティ推進員」の名称で一部の学園で活動を始めましたが、令和2年度から名称を改め、全7学園に配置します。

「スクール・コミュニティ推進員」は、こうした地域ぐるみの教育を広げるために教育委員会から委嘱され、学校と地域をつなぐ仕事をしています。平成30年度に「スクール・コミュニティ推進員」の名称で一部の学園で活動を始めましたが、令和2年度から名称を改め、全7学園に配置します。

スクール・コミュニティ推進員の役割などについて、そのリーダー役である統括スクール・コミュニティ推進員(以下、S.C推進員)の役割について教えてください

この4月から市内7学園すべてに、S.C推進員が配置されました。これまで、各学園では、コミュニティ・スクール委員会が、学園・学校の教育方針を承認しながら、学校が目指す方向性を共有し、学校とともに汗をかきながら子どもたちの教育を担ってきました。S.C推進員は、学校と地域のさらなる連携・協働を進めるためのコーディネーター(連絡・調整役)として、学園長校の職員室や事務室に席を持ち、学校と地域を行き来しながら活動しています。

どのような人がS.C推進員を務めているのですか

コーディネーターというのは、個人と個人、組織と個人、組織と組織を二重に合わせつなぐのが役目です。いわば「縁の下」の力持ちのような存在です。これに意欲をもって取り組める方であれば務まりません。さらに、学校の事情に精通し、地域に顔がきく人、というところでしょうか。PTAや地域子どもクラブ、住民協議会などでの活動を通じて、学校や子どもたちに長く関わり、コミュニティ・スクールを作り上げることに尽力され、地域の人脈づくりや学校との信頼関係づくりをされてきた人々です。

S.C推進員として、具体的にどのような仕事をされているのでしょうか?

学習ボランティアやサポート隊など、学園・学内の支援組織をより充実させるためのシステムの構築や、みたか地域未来塾事業を実施するための基盤づくり、サポーターの募集、場の運営などを担っています。また、コミュニティ・スクール委員会とのつながりを深めるため、コミュニティ・スクール委員会の会議にも参加して勉強しながら協働体制を築いてきました。そこで学校のニーズを聞き取り、各学園のS.C推進員は、自分の得意分野を生かしながら様々な活動につなげています。

保護者や学園・学校の関係者でなくても、子どもたちを応援するボランティアに参加することはできるのでしょうか?

もちろん可能です。学校支援ボランティアとして活動していただくにあたり、学校が育てようとしている子ども像を学校と共有し、同じ方向を向いて支援していただくことが重要です。まずは学校に関わるための基本的なルールなどについて理解していただく必要があると思っています。

統括S.C推進員としての今後の抱負をお聞かせください

まずはS.C推進員の皆さんの後方支援です。S.C推進員の仕事は多岐にわたり、学園・学校ごとに環境やニーズが違つので、推進員全員が同じことをしていればよいということではありません。学び合いながら自分のすべきことを見つけていくための勉強会を開催したり、S.C推進員からの相談にいつでも乗れるような体制を整えたりといった支援を進めたいと思います。また、学生やシニア世代などボランティアの裾野を広げるための活動や先生方や子どもたちと地域の方々との出会いの場となるような企画も考えています。

よつやなぎ ちかこ 四柳千夏子さんプロフィール

上連雀在住。平成15年、第七小学校PTA代表を務めて以来、七小地域子どもクラブ「あそびバナナ」を立ち上げ、同クラブ地域コーディネーター、第四中学校PTA会長などを歴任。平成21年4月三鷹中央学園開園時にコミュニティ・スクール委員として携わり、平成23年から25年同委員会会長。平成25年から文部科学省の「CSマイスター」として、全国のコミュニティ・スクール導入推進のための講演活動など多数。一般社団法人みたかSCサポートネット代表理事。令和元年10月より三鷹市教育委員会統括コミュニティ・スクール推進員。

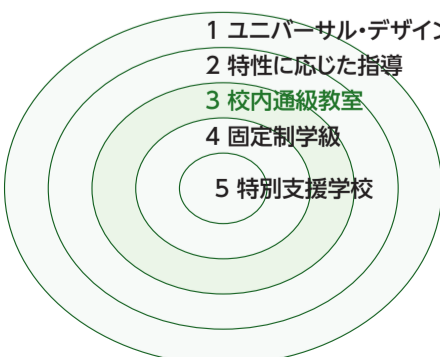
全市立小・中学校で 校内通級教室がスタートします

令和2年度から中学校でも校内通級教室が始まります。

校内通級教室は、学習や学校生活をスムーズに進めるために、一人ひとりの課題に応じて個別や小集団での指導を行い、自信をもって学校生活が送れるように支援する場所です。これまで、全市立小学校で、5つの拠点校から教員が各校へ巡回して指導を行っていましたが、令和2年度から、中学校の通級指導学級を校内通級教室に移行し、中学校においても巡回指導を始めます。

校内通級教室に巡回する教員は、在籍校の教員と連携しながら児童・生徒を支援していきます。教育委員会では、インクルーシブ教育の理念に基づき、学びの場の連続性を大切に教育を目指します。 学務課 ☎内線 3291

小学校	中学校
拠点校:第七小学校 ポプラ教室 巡回校:三小 拠点校:第二小学校 さくら木教室 巡回校:井口小、大沢台小、羽沢小 拠点校:第五小学校 つばさ教室 巡回校:高山小	拠点校:第二中学校 校内通級教室 巡回校:四中、七中 拠点校:第六中学校 校内通級教室 巡回校:一中、三中、五中



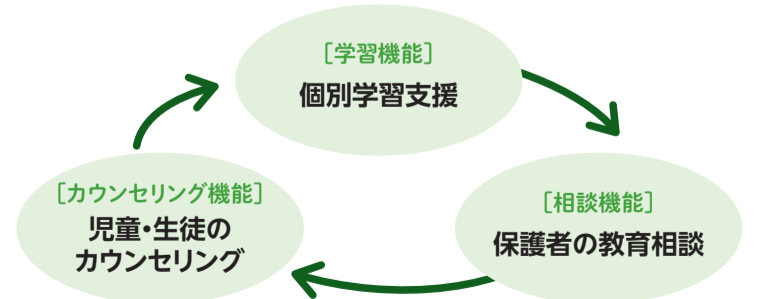
- ユニバーサルデザインによる誰にでもわかりやすい授業
- 学級内での特性に応じた配慮指導
- 特性に応じた個別または小集団等による指導(校内通級教室・通級制等)
- インクルーシブな環境での特性に応じた指導(固定制等)
- より専門的で手厚い特性に応じた指導(特別支援学校)

適応支援教室 「A-Room」を開設します

長期欠席傾向にある児童・生徒のために、令和2年度から適応支援教室「A-Room」を開設します。A-Roomでは、在籍校と連携しながら、お子さんの状況を把握し、個に応じた支援を行うとともに、学習機会を保障することにより、自らの進路を主体的に捉えて、社会的自立や学校復帰に向かえるよう支援します。

- ◆対象:三鷹市立小・中学校に通う小学4年生～中学3年生
- ◆所在地:第一中学校1階、教育センター2階(分室)
- ◆A-Roomの3つの機能

- ①学習機能**
「長期に学校を休むと勉強についていけなくなるのではないか」というお子さんの不安を和らげるよう指導員が個別学習を支援します。
- ②カウンセリング機能**
何に困っていて、どんなことに不安を感じているのか、専門職員がお子さんのカウンセリングを行い、ともに対処方法を考えます。
- ③保護者の相談機能**
お子さんを巡るご家庭での困りごとの解決に向けて、保護者の相談をお受けします。 学務課 ☎内線 3291



※A-Roomの「A」には、「Assist:支援する」、「Adjust:適応する」、「Advance:前進する」の3つの意味があります。A-Roomでは、お子さんの社会的自立と学校復帰に向けて、環境に適応し、前に進むことを支援します。